

みずき野の将来のまちづくりに関する調査報告書

平成 29 年 12 月

I.実施概要

1.調査目的と前提

これまでアンケートや町会へのヒアリングなどを実施してきたが、より多様な地域の主体との対話の場を設け、分析し、地域の長期ビジョンをまとめる。

2.実施期間

2017年10月2日（月）～11月24日（金）

3.対象者

(1)ヒアリング

守谷市みずき野周辺の地域市民を対象とした。守谷市の地域活動を行っている各団体やエクセル跡地周辺の利害関係者をリストアップし、連絡が取れる方、期間中に対応が可能な方、承諾が得られた方を中心に実施した。

(2)オープンハウス

エクセル跡地に現在運営されている施設利用者と、みずき野周辺の地域住民がよく利用するスーパーマーケットに説明パネルを設置し、関心のある人に対して、プロジェクトについての情報提供とともに意見収集を行った。

(3)WEB 意見募集

守谷市民に限らず、一定期間守谷市の公式WEBサイトへ意見募集のページを設け、意見収集を行った。

4.調査項目

- 1)地域の課題や課題解決のねらいについて
- 2)考慮すべき利害・関心
- 3)今後ビジョンを実現するための適切なプロセス（体制・手法・スケジュールなど）
- 4)他に関わるべきステークホルダー

5.調査方法

(1)ヒアリング

第三者のインタビュアーが以下の団体に対して、1時間程度の訪問聞き取り調査を実施した。

ヒアリング対象団体

みずき野町内会、NPO 明日のみずき野を考える会、みずき野幼稚園職員・保護者、郷州小学校PTA・おやじの会、みずき会、みずき野町内会育成会（計24名）

(2)オープンハウス

ステークホルダーヒアリングやすでに実施しているアンケートの概要をパネル展示し、組織、団体に所属していない多様な地域主体の意見を集めると同時に、プロジェクトの周知を行った。

- 1)ヨークベニマル守谷店…16名（うちみずき野在住者7名）
- 2)守谷インターナショナルスイミングスクール…40名（うちみずき野在住者28名）

□オープンハウス実施期間と場所

1)11月18日(土)午前10時~午後6時 ヨークベニマル守谷店

2)11月23日(祝)午前10時~午後6時 守谷インターナショナルスイミングスクール

※11/18(土)~24日(金) 概要版閲覧を実施

(3)WEB アンケート

特設 WEB サイトを設け、①みずき野地域での日常生活について困っていること、②みずき野地域での現状とまちづくりについて、③みずき野地域の今後のまちづくりについて、意見を募集した。

□募集期間と意見募集数

10月6日(金)~10月31日(火) (26日間) 16件

6.意見のまとめ方

意見まとめはインタビュアーが作成した。

対立する意見など対象者によって異なる見方もあったが、多様な意見があることを明らかにできるように、客観的、中立的な視点からまとめた。

意見まとめでの囲みの文章は、意見趣旨を整理したものであり、囲み以外はインタビュアーの認識を示したものである。また、カギ括弧内は、対象者の発言を抜粋したものである。

II.意見まとめ

1.みずき野での日常生活に関すること

(1)衣食住について

- 現在は不便を感じていないが、運転免許を持っていない人や今後免許証を返納することを勘案すると、みずき野の徒歩圏内で特に生鮮品や日用品の買い物ができそうな場所がほしい。
- みずき野に住んでいる人のニーズに合った、少量でも高品質の品が揃っているといった、購入したいと思える商品のみずき野内で調達できるようにしたい。ただし、中途半端な品揃えであれば、結局また使われなくなってしまのおそれがある。
- みずき野近郊にあった衣料品や生地、子ども用品を取り扱っているお店が閉店し、それぞれを自家用車で複数店舗を回って買っている。急に必要になったり、試着したり実物を見てみないと買えないもののため、不便を感じている。
- 買い物できる場は、欲しいものを手に入れる場だけでなく、地域の人と出会っておしゃべりしたりできるような場であったり、災害時の物資在庫としての機能を果たしてほしい。そのためにも、お店のバリアフリーが必要だ。
- 地域の人やお母さん同士、スイミングやフィットネスを終えた人など、みずき野在住者に限らず、だれもが気軽にちょっとおしゃべりしたり、お茶ができるひと息できるスペースがほしい。

- 栄養バランスがとれる食事を三食とれるようにするため、みずき野地域内で通うことができ、リーズナブルな価格設定の食事ができる場がほしい。
- 飲食店より、お茶を飲んだりおしゃべりする場所が、歩いて行ける距離にほしい。
- 飲み会や打ち上げするスペースがない。会合やクラブ活動の後にみんなで懇親できるお店がほしい。
- 緑の豊かな環境は評価されているが、管理ができていない状況なので、防犯・防災上心配だ。

(2)地域活動に関すること

- 地域活動は盛んに行われているが、高齢化に伴い自助・共助に限界を感じている。
- 地域に長く住んでいる人同士は、顔見知りの関係が強く、新たに地域活動に参加しようとしてもしづらい面がある。一方、新たな人や若い人との交流も意識的に行われ、地域活動の関与者を広げる工夫もされている。
- サークル活動は年齢を問わず盛んであり、サークル活動を通じた女性達のつながりが強くみられる。

(3)移動に関すること

- 自家用車をもっている家庭では、特に移動に不便は感じていない。都内で電車で勤める人や免許を返納した人などには、駅からみずき野のバスが重要な移動手段となっている。にもかかわらず、今年になってバスの本数が減ってしまい、不便を感じている。現在運行しているコミュニティバスのルートや本数を工夫し、地域の足として確保してほしい。

(4)健康・医療・福祉に関すること

- みずき野地域外にある民間スポーツクラブや公営スポーツ施設を使われており、地域内にあるスイミングクラブやフィットネスクラブは、地域外から利用されている。みずき野住民が健康的に過ごすためには、歩いて行ける範囲に健康増進のための施設がほしい。ウォーキングなど日常的な運動をするためには、公園や歩道の管理が適正に行われ、一人でも気軽に使えるようにしてほしい。
- 現在はかかりつけ医など日常的な医療に対する不満は少ないが、医療従事者の高齢化に伴い、かかりつけ医の承継の課題や、身近な医療機関の診療科の充実、訪問医療などのニーズが高まることが予想される。

(5)文化・芸術に関すること

- 地域住民が行う文化芸術活動は盛んで、地域には、プロフェッショナルが居住していることもあり、そうしたスキルに触れる機会はあるが、プロを招いたコンサートなどに触れるような施設が不足している。

2.みずき野のまちづくりに対する期待や懸念

(1)公共施設

- 道路は整備され、自家用車によるアクセスが向上されたが、通過交通が増え、交通安全上の不安がある。
- 市役所は、日常的な手続きでは、現状の公民館の出張機能で充足しているが、本庁舎のみでしか手続きできない場合は、交通の便が悪く不便だ。
- 郷州公民館は老朽化し、スペースも限られている。利用時間も早いため、多様な人が使えるような施設の充実が必要だ。

(2)地域活動やコミュニティ

- 町内会活動は、すでに多様な地域課題解決に取り組んでいるが、すべてまかなうことはできない。さらに小さな単位での地域の支えあいなどの仕組みが必要だ。
- みずき野に住んでいる人は、年齢層や経済状況が似通っているため、コミュニケーションは取りやすいが、周辺地域にとっては敷居を高く感じる。

(3)まちづくりの方針

①アクセスの向上

- アクセスが悪いことで、外出機会が減ったり、社会人になるとみずき野から離れてしまう。自家用車以外でもみずき野地域内外へアクセスできるようにしてほしい。

②定住促進

- シェアハウスは、学生にとっては、地域との交流という点では良い経験を得られている。地域住民としては、若返りに期待がもたれる一方、コミュニティ形成にはつながらないのではないかと懸念がある。
- まちの特色を打ち出し、みずき野への知名度を上げてほしい。
- 市やデベロッパーが主導して、空家活用や若者定住に対する助成金などを積極的な施策を打ち出してほしい。

③住環境の保全

- 現在ある緑を適切に管理しながら保全し、良好な住環境を残してほしい。

④防災に向けた備え

- 防災訓練は活発に行われているが、設備が十分でなかったり、高齢化に伴い地域の人も参加しづらくなり、実際災害が起きたときに不安だ。

⑤働く場としての整備

- みずき野地域に住む能力のある人が働く機会を生み出したり、若い人の定住促進するために、働く場としての環境整備を進め、地域の活性化につなげたい。

(4)進め方

- 町内会の役員だけでなく、いろいろな立場の方の意見を聞き、まちづくりに反映してほしい。

3.エクセル跡地に対する期待と懸念

(1)機能

- みずき野の住民だけでなく、みずき野以外に住んでいる方も気軽に利用でき、いろいろな人が行き交い、交流できる場にする。
- 現在守谷市に不足している地域医療・福祉機能を集約し、守谷市全域をカバーするようなセンター機能を配置し、サービスを充実させ、高齢になっても地域に住み続けられるようにする。
- みずき野をモデル地区として、施設や仕組みを整備し、少子・高齢化問題へ先進的に取り組んでほしい。
- みずき野地域の人のニーズに合った「高品質」「他にない」ような要素を備えた小規模の買い物スペースをつくってほしい。
- 地域住民の日常的な栄養管理や交流を促進する飲食できる場所がほしい。
- 現在の集会所や公民館の規模では、用途が限られてしまい、活発な地域活動をカバーできない。まとまったスペースや設備、利用時間を確保することにより、地域活動のさらなる活性化を図りたい。
- みずき野地域で健康的に過ごすために、安定的な経営のもと、世代・性別を問わず気軽にいろいろなスポーツができる施設がほしい。
- まとまった駐車スペースを確保し、近隣施設の行事の来訪者も使えるようにしたい。
- 若年層を増やすために、若者や小中学生が活動ができる場や、児童館などの設置などが必要だ。
- フルタイムで働く母親も増えている状況や若年家族がみずき野に移住する事を促進するために、保育園を設置したい。また、災害時に都心で働く親が子どもを引き取れないときに備え、宿泊機能がほしい。
- 地域に住む人が働くことができたり、お店の人とのコミュニケーション促進として、小さな商店を整備してほしい
- ATM はよく使われているが、通帳の繰り越しや硬貨の取り扱いがないため、不便だ。

(2)運営

- 町内会では、これまでスーパーが設置されていたが、度重なる撤退があったため、民間事業者運営に任すのではなく、住民がボランティアでスタッフをするなど、地域主体の運営が望まれる。ただ、運営にあたってはすべて地元で運営するのは難しいため、建物の維持管理費などは市でサポートしてほしい。
- みずき野以外の在住者からは、みずき野に限定せず気兼ねなく使えるような施設運営にしてほしい。
- 高品質で小規模の地域向けスーパーが他地域で展開されている。みずき野のニーズに合った民間事業参加者を探したい。
- みずき野地域の人の多くは、車中心の生活をしていることもあり、まとまった駐車

場を確保してほしい。現在は、駐車場利用者は限られているが、施設の用途によっては、来街者が増え、犯罪発生や交通安全の懸念がある。

(3)進め方

- これまでエクセル跡地について、アンケート調査や事例見学をしている。また税金も投入しているので、早急に方針を決めて進めてほしい。
- 施設整備にあたっては性急に結論を出さず、過度に地域の負担がないような配慮が必要である。
- 若い世代をはじめ多様な立場の意見を十分に聞いて、計画に反映してほしい。

III.提案

1.長期ビジョン実現に向けた論点整理

(1)進め方

(2)視点

- ①アクセスの確保
- ②みずき野の静かで安全な環境を保つ
- ③多様な主体が利用・参画できる
- ④働く場としての活用

2.跡地利用を考えるうえでの論点整理

- ①地域内外の接点となる場
- ②持続可能な経営・運営形態
- ③みずき野に住む人の日常生活に資する
- ④みずき野のセンターとしての一体的な整備